

伊丹福音ルーテル教会 主の降誕主日礼拝のしおり

2022 年 12 月 25 日

前奏

招きのことば：詩編 98 編 1-6 節

【賛歌】新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。| 右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。| 主は救いを示し 恵みの御業を諸国の民の目に現し イスラエルの家に対する慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人は わたしたちの神の救いの御業を見た。| 全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。琴に合わせてほめ歌え 琴に合わせ、樂の音に合わせて。ラッパを吹き、角笛を響かせて 王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

本年もクリスマスを迎えました。世を照らすまことの光であるイエス様の御恵みにあずかって、私たちは今日まで導かれてまいりました。イエス様は私たちのすべての罪を赦し、新しいいのちを与えるためにクリスマスにお生まれくださいました。今日はイエス様のお誕生を、こうして皆さんとご一緒にお祝いできることを心から感謝をいたします。イエス様を信じて歩む私たちがそれぞれの暮らしの場で、光と温もりを世にもたらす証し人になって歩ませてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

堅信礼式

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 牧師よりよびかけ | 皆さんと会衆に堅信の意味と喜びをお話します |
| 2. 牧師よりおたずね | 使徒信条などのお尋ねをします★ |
| 3. 堅信の祝福と十字架のしるし | ひざまずきます。頭に手をおき祈ります |
| 4. 感謝のことば | 感謝してきたこと、これから志していることのお証し★ |
| 5. 約束のみ言葉 | おひとりひとりにみ言葉を差し上げます |
| 6. 牧師の祝福の祈りと宣言 | 会衆の方を向いて並びます |

使徒書朗読：ヘブライ人への手紙 1 章 1-4 節

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 1 章 1-14 節

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためであ

る。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

讃美歌 108 番

- 1 いざ歌え、いざ祝え、嬉しきこの宵(よい)、神の御子 あらわれぬ、いざ、ほめたたえよ
 - 2 いざ歌え、いざ祝え、楽しきこの宵(よい)、救い主 世にいてぬ いざ、ほめたたえよ
 - 3 いざ歌え、いざ祝え、清けきこの宵(よい)、いとたかき みどり子を いざ、ほめたたえよ
- アーメン**

説教：「恵みと真理に満ちて」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

クリスマス、おめでとうございます。クリスマスはどうしてお祝いするのでしょうか。それはクリスマスが奇跡だからです。

クリスマスはイエス・キリストの誕生日です。イエス様はまことの神様ですが、私たちのために人となってくださいました。これは私たちが思いつかない奇跡です。イエス様はまことの神さまであり、同時にまことの人です。ヨハネによる福音書 1 章ではイエス様のことを「言」と表現して、「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」とありました。こんな方はイエス様だけです。イエス様はおとめマリアからお生まれになりました。マリアはヨセフとの関係でみごもったのではなくて、聖霊によって受胎しました。罪咎のないまことの神様が、まことの人となってくださいました。

なぜイエス様は神様であるのに人になってくださったのでしょうか。それは私たち人間のために身代わりになるためでした。聖書には、罪の支払う報酬は死です、と書かれています。私たちが死ぬのは、私たちが生まれつき自分中心でわがままな罪びとであるからです。イエス様は罪のないお方でしたのに十字架にかかって死んでくださいました。罪がないなら死ななくてよいはずですが、しかしイエス様は命をお与えくださいました。それは私たち罪びとの死の裁きを、イエス様が身代わりになって受けてくださったからでした。さらに、三日目によみがえったイエス様は、私たちに新しい命をお与えくださいます。イエス様は神様の前で私たちの罪を赦し、わがままな心を新しい心にします。イエス様は私たちに罪の赦しと新しい命を与えます。

なぜクリスマスをお祝いしますか。それはクリスマスが奇跡だからです。イエス・キリストは神様であられるのに人になってくださいました。私たちに罪の赦しと新しい命をお与えくださいます。第一の奇跡です。

クリスマスをなぜお祝いしますか。それはクリスマスが奇跡だからです。私たちは生まれつき、神様を信じていません。自分中心でわがままだからです。けれども神様は私たちの内に、クリスマスにお生まれになったイエス・キリストを信じて受け入れる信仰をおつくりくださいます。これは第二の奇跡です。

ヨハネによる福音書 1 章に、「言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」とありました。「言」として言い表されているイエス様は、ご自分がおつくりになった民のところに生まれてくださったのですが、民はイエス様を受け入れなかったということですね。だからイエス様を十字架につけてしまいました。ヨハネによる福音書にはイエス様が十字架にかかられたいきさつが記されています。自分中心でわがままな私たちもイエス様を受け入れません。神様は困ったときに便利に助けてくれたらよいだけで、基本的には私たちは神様に生活の介入を受けないでどうにか自分で生きていきたいと思う者です。ですから神様から心が離れた自分中心でわがままな罪を赦します、とイエス様がおっしゃっていても、私たちは素直に受け入れません。けれども、神様はイエス様を「受け入れた人、その御名を信じる人々に神の子となる資格を与えた」と記されていますね。イエス様は私たちの心にイエス様を救い主として信用する信仰をお作りくださいます。私たちの罪を赦して新しい命を与えてくださるという約束を、信じる信仰を与えてくださいます。

「言」と表現されていますが、私たちは聖書のみ言葉を聴くとき、その聖書のみ言葉が働いて私たちの心の中に信仰を作ってくださいます。私たちには神様を信頼する信仰を自分で紡ぎ出すことはできません。ローマ 10 章 17 節にあるように「実に、信仰は聞くことにより、キリストのことは聞くことによって始まるのです。」み言葉を聞くことで信仰が作られます。ちょうど、神様が天と地をおつくりになった天地創造の時に、「光よ、あれ」と言われた言葉によって万物をおつくりになったように、イエス様が私たちの心にみ言葉によって信仰を作ってくださいます。そして、これは奇跡です。

クリスマスにイエス様がお誕生くださいました。もし今日、イエス様がみ言葉によってあなたの心に信仰をお作りくださったのなら、今日が、あなたの内にイエス様がお生まれくださった本当のクリスマスということですね。あなたもイエス様からすべての罪をゆるされ新しいいのちに生かされるからです。自分中心でわがままな罪の縛りから解放されて、新しい心をいただいて、神様をほめたたえ、家庭や社会や教会で、隣人のために感謝をもって心を砕いて生きていく新しい生きがいを与えられます。

イエス様は信じて洗礼を受ける者は救われる、と言われました。洗礼を受けるとき、この信仰が与えられます。赤ちゃんのとき、親によって神様のもとに連れてきてもらって洗礼に預かると、その子どもの中に親が信頼している神様への信頼が生まれます。その子は神の子とされます。そして、たとえ次の日に死んでも、天の御国に迎えられます。親は日々その子をイエス様のところに連れてきます。つまり、子どもたちがみ言葉に近く生活できるように整えます。子どもたちはみ言葉を聴きながら成長することで、み言葉がその子どもの信仰を育てます。洗礼の恵みに立ち返って、イエス様によってすべての罪が赦されて、日々神様から与えられた新しいのちに生きていることを何度も確認します。

幼いときには神様への信頼はあっても自分の口では信仰告白ができませんでした。それで、幼児のときに洗礼を受けていた者は堅信式において信仰の告白をします。神様が洗礼によって既に神様の子どもにしてくださっていることを告白し感謝します。親の信仰では救われません。神様は孫をつくりません。洗礼によってイエス様とひとつとされた者はみな、神様の子どもです。イエス様の罪の赦しと新しい命を、み言葉によって受け続ける神の子です。

洗礼は父と御子と聖霊の、ひとりのまことの神様のお名前によって授けられます。父、子、聖霊の神様の責任において、私たちは洗礼にあずかります。私たちをつくってこの世に送り出し、また日々私たちをお支え下さっている父なる全能の神様と、私たちのために人となって死んでよみがえってくださった御子なるイエス様と、そして、語られるみ言葉を聴くことによって、また洗礼に預かり聖餐に預かることによって私たちの内に信仰を作り育ててくださり、最後まで私たちのイエス様への信頼を強めて導いてくださる聖霊なる神様のお名前によって、洗礼にあずかります。つまり父と御子と聖霊のひとりのまことの神様は、洗礼においてご自身の責任にかけて、あなたの全ての罪を赦して新しい命を与え、神の子としてくださいます。私たちは自分の理性や力ではイエス様を信じることはできません。むしろ逆らって背を向けてしまいます。自分中心でわがままだからです。けれども神様はクリスマスにお生まれになったイエス・キリストを信じて受け入れる信仰を私たちの内につくってくださいます。これは奇跡です。

今日私たちは神様のみ言葉を聴きながら、クリスマスをお祝いしています。クリスマスは奇跡です。イエス様がクリスマスにお生まれくださり、またイエス様が私たちの内にイエス様を信頼する信仰をお作りくださる神様の奇跡のクリスマスを私たちは一緒にお祝いしています。クリスマス、おめでとうございます。

しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。ヨハネによる福音書 1 章 12 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

洗礼式

牧師より勧めと祈り	洗礼の意味と喜びをお話します
牧師より洗礼のみ言葉	マタイによる福音書 28 章など
感謝のことば	洗礼に至ったいきさつと感謝、これからの志しのお証し★
誓約	使徒信条など、いくつかのことをお尋ねします★
授洗	洗礼盤の前でひざまずきます
約束のみ言葉	約束のみ言葉を差し上げます
牧師の祝福の祈りと宣言	会衆の方を向いて立ちます

讃美歌 112 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 諸人(もろびと)こそぞりて 迎えまつれ 久しく待ちにし
※主は来ませり 主は来ませり 主は、主は来ませり
- 2 悪魔のひとやを 打ち砕きて 捕虜(とりこ)を放つと ※
- 3 この世の闇路を 照らし給たもう 妙(たえ)なる光の ※
- 4 しほめる心の 花を咲かせ 恵みの露おく ※
- 5 平和の君なる御子を迎え 救いの主(ぬし)とぞ
ほめたたえよ ほめたたえよ ほめ、ほめたたえよ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の おお御神に ときわに たえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏